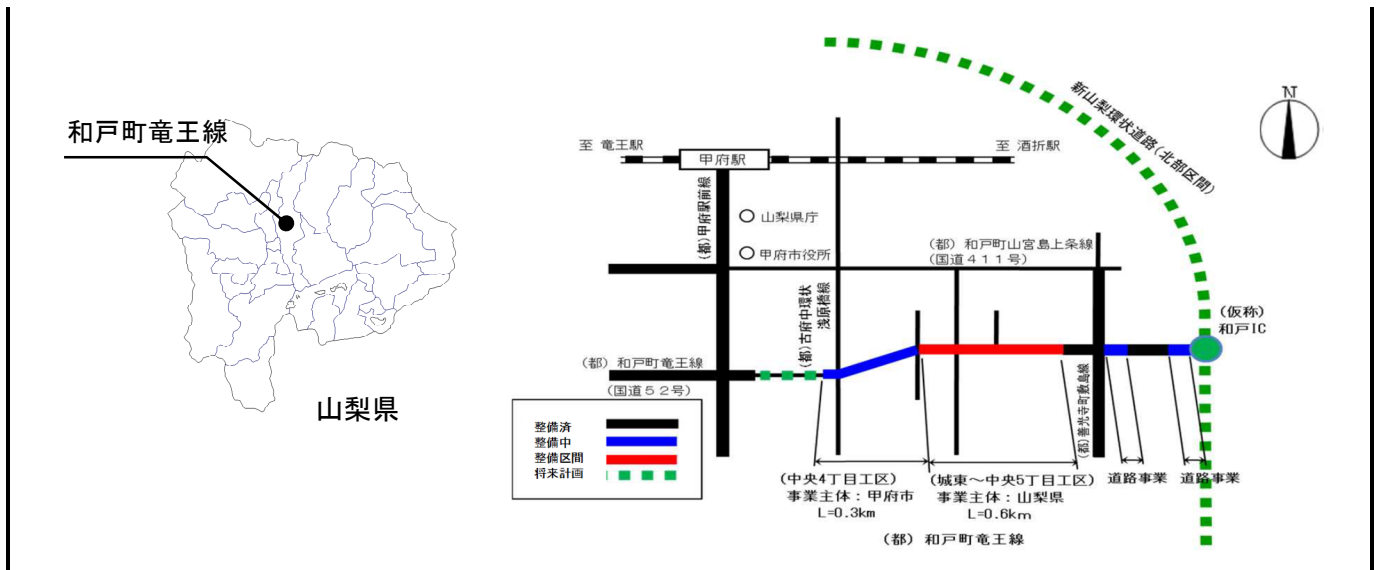


再評価結果（令和4年度事業継続箇所）

担当課：都市局 街路交通施設課
担当課長名：荒川 辰雄

| | | | | | |
|--|---------------------------------------|--|--|-------------|--------|
| 事業名 | 地高ICアクセス 都市計画道路 和戸町竜王線（城東～中央5丁目工区） | 事業区分 | 街路 | 事業主体 | 山梨県 |
| 起終点 | 自：山梨県甲府市朝気一丁目 至：山梨県甲府市中央五丁目 | | | 延長 | 0.6 km |
| 事業概要 | | | | | |
| 和戸町竜王線は、甲府市和戸町から国道20号の竜王立体に至る4車線の幹線道路であり、県内道路ネットワークを構成する重要な路線の一つである。甲府中心市街地は公共交通機関が脆弱、かつ自動車交通によるアクセスが悪く、中心地の空洞化が進んでいる。このため本路線を整備し、甲府都市圏の道路ネットワークを形成し、アクセス性の向上を図り中心市街地の都市機能を再構築する。 | | | | | |
| H23年度事業化 | | S21年度都市計画決定 | | H28年度用地着手 | |
| H31年度工事着手 | | | | | |
| 全体事業費 | 約61億円 | 事業進捗率 | 約63% | 供用済延長 | — km |
| 計画交通量 | 17,700台/日 | | | | |
| 費用対効果 | B/C (事業全体) 1.3 (残事業) 4.1 | 総費用 (残事業)/(事業全体) 17/56億円 事業費：17/56億円 維持管理費：0.04/0.04億円 | 総便益 (残事業)/(事業全体) 71/71億円 走行時間短縮便益：54/54億円 走行経費減少便益：12/12億円 交通事故減少便益：5.2/5.2億円 | 基準年 令和3年 | |
| 感度分析の結果 | | | | | |
| (事業全体) 交通量：B/C=1.2~1.4 (交通量±10%) (残事業) 交通量：B/C=3.7~4.5 (交通量±10%) 事業費：B/C=1.2~1.4 (事業費±10%) 事業費：B/C=3.7~4.6 (事業費±10%) 事業期間：B/C=1.1~1.5 (事業期間±20%) 事業期間：B/C=3.5~4.7 (事業期間±20%) | | | | | |
| 事業の効果等 | | | | | |
| 地域高規格道路へのアクセス道路として、広域的な地域間交流機能を補完するとともに、現道の渋滞緩和や歩行者・自転車の安全確保、災害時の避難路機能、緊急輸送機能の向上、観光産業への寄与などが見込まれる。 | | | | | |
| 関係する地方公共団体等の意見 | | | | | |
| 本事業所在地である甲府市からは早期供用の要望を受けている。 | | | | | |
| 事業評価監視委員会の意見 | | | | | |
| 事業継続を妥当と認める。 | | | | | |
| 事業採択時より再評価実施までの周辺環境変化等 | | | | | |
| 周辺環境等に特に変化はない。 | | | | | |
| 事業の進捗状況、残事業の内容等 | | | | | |
| 用地取得率約92%、事業進捗率約63% | | | | | |
| 事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 | | | | | |
| 残る用地の取得を継続しており、今後は早期完了を目指し、道路改良工事を推進していく。 | | | | | |
| 施設の構造や工法の変更等 | | | | | |
| 今後も新技術の採用や工法の見直しによる工事コストの縮減等、総コストの縮減に努めていく。 | | | | | |
| 対応方針 | 事業継続 | | | | |
| 対応方針決定の理由 | 事業の必要性、重要性は変化なく、費用対効果の投資効果も確保されているため。 | | | | |
| 事業概要図 | | | | | |



- ※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価値を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。
- ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳と一致しないことがある。